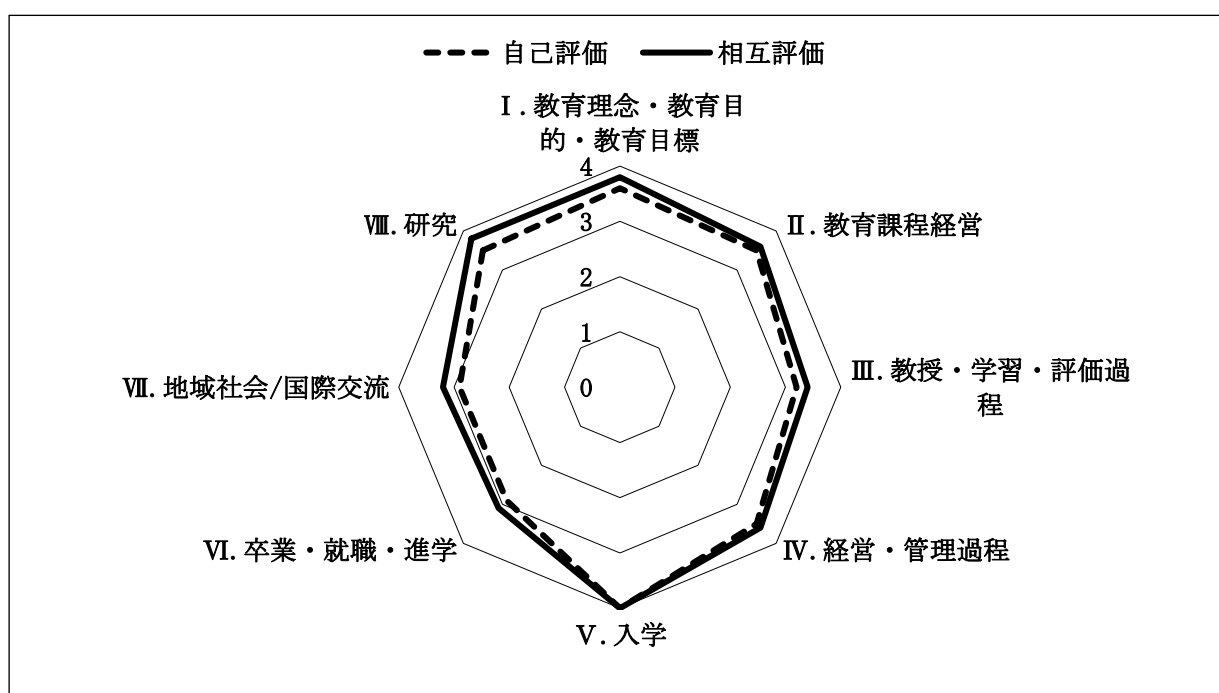


自己点検・自己評価および学校相互評価について

1. 評価日：令和元年9月13日（金）
2. 評価者：全国国立病院附属看護学校副学校長・教育主事協議会中国四国支部の副学校長・教育主事5名と、国立病院機構以外の看護専門学校の教育に携わる副学校長・教育主事に相当する者1名の合計6名
3. 評価内容：【I. 教育理念・教育目的・教育目標】【II. 教育課程経営】【III. 教授・学習・評価過程】【IV. 経営・管理過程】【V. 入学】【VI. 卒業・就職・進学】【VII. 地域社会/国際交流】【VIII. 研究】の8領域、129の評価項目から成る。
4. 評価基準：〈4. 当てはまる〉〈3. ほぼ当てはまる〉〈2. やや当てはまる〉〈1. 当てはまらない〉の4段階評定である。
5. 評価結果：



評価内容（領域）	自己評価 平均点	学校相互評価 （他者評価） 平均点
I. 教育理念・教育目的・教育目標	3.6	3.8
II. 教育課程経営	3.5	3.6
III. 教授・学習・評価過程	3.2	3.4
IV. 経営・管理過程	3.5	3.6
V. 入学	4.0	4.0
VI. 卒業・就職・進学	2.9	3.1
VII. 地域社会/国際交流	2.9	3.2
VIII. 研究	3.5	3.8

6. 評価者の意見と今後の課題

I. 教育理念・教育目的・教育目標

- ・「智慧」「創造」「誠実」といったわかりやすい言葉で示し、養成する看護師等が卒業時点においてもつべき資質を明らかにしている。

↓

【課題】

- ・学校の方針について、卒業認定の方針（ディプロマポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）、入学者受け入れの方針（アドミッションポリシー）を定め教育のさらなる充実を図る。

II. 教育課程経営

〈教育課程経営者の活動〉

- ・教育課程編成者と教職員全体は、教育課程と授業実践、教育評価との関連性を明確に理解し、教育理念・教育目的の達成に向けて一貫した活動を行っている。

〈教育課程編成の考え方とその具体的な構成〉

- ・看護師等養成所の運営に関する指導ガイドラインに基づき教育理念・教育目的から具体化した教育目標を達成させるための教育内容を明文化できている。

〈科目、単元構成〉

- ・看護師等養成所の運営に関する指導ガイドラインに基づき、教育理念・教育目的・教育目標から教育内容を抽出し、看護師を養成するための適切な科目設定ができている。

〈教育計画〉

- ・学則、履修規程、学生便覧等において、単位履修の方法や単位認定についてわかりやすく明示している。

〈教育課程評価の体系〉

- ・単位認定の基準、方法、単位互換について、学則、学則細則、履修規程等に明文化している。教育課程については、毎年の自己点検・自己評価を定期的に行い、学校相互評価も3年に1回受審し、ホームページで公表している。

〈教員の教育・研究活動の充実〉

- ・プロジェクトを立ち上げ、組織的に活動していることは評価でき、是非とも参考にしたい取り組みである。

〈学生の看護実践体験の保障〉

- ・実習施設と学校との連携、学習環境の調整、物品の整備等に取り組み、学生が看護実践できるような体制づくりができている。

↓

【課題】

- ・臨地実習に関する倫理規程等を検討し、明記することを期待する。

III. 教授・学習・評価過程

〈授業内容と教育課程との一貫性〉、〈看護学との妥当性〉、〈授業内容間の関連と発展〉

- ・科目間の関連性や一貫性、授業内容のまとまりの考え方と関連性について確認でき、授業内容の重複や整合性についてマトリックスを作成し、検討する場を設けている。

〈授業の展開過程〉

- ・学内での研究授業や公開授業を行い、指導技術が学生のレベルに合うように改善している。また、臨床指導者と共同して看護技術等の演習を行い、臨床場面に即した学習ができるよう工夫し改善している。年間の役割分担表を作成し、教員各々が支援し合える職場環境であることがわかる。

〈目標達成の評価とフィードバック〉

- ・講義、実習終了時に評価を行い、その結果を検討し、課題を明確にしている。課題に基づき、シラバス、実習要項の修正を行っている。

〈学習への動機づけと支援〉

- ・シラバス、学生便覧の活用状況が確認でき、学生の学習への動機づけに対する支援となっている。

↓

【課題】

- ・評価方法としてのポートフォリオの効果的な活用方法の検討を望む。

IV. 経営・管理過程

〈設置者の意思・指針〉

- ・教育課程の経営と管理運営に関する考えについては、機構と母体病院の運営方針を踏まえたうえで、学校運営方針として収支計画と共に概況書に明記し、運営計画は学生便覧に明記して教職員に周知している。

〈組織体制〉

- ・組織体制として、教育理念や教育目的を達成するための権限や役割機能、意思決定システムは十分に整っており特に問題はない。

〈財政基盤〉

- ・財政基盤の確保については、香川県の補助金交付を受けており、また平成30年度から1%運動として支出1%削減を目指した取り組みの成果をあげている。それをスライド資料でグラフ化する等明確にわかりやすく可視化し教員間で共有している。

〈施設設備の整備〉

- ・平成11年の校舎建設から約20年が経過し老朽化部分も見られており、定期点検の実施により、計画的な修理整備へとつなげていくことが重要である。

〈学生生活の支援〉

- ・学生生活に対する支援内容は学生便覧に詳しく記載している。

〈養成所に関する情報提供〉

- ・今年度はオープンカレッジに高校教諭を招待して学校説明会を開催する等、新たなピーアール活動を工夫されている。ホームページもリニューアルし、学校の概要がよくわかり、社会に向けて公表が必要な情報が盛り込まれ、非常に見やすく工夫されたものとなっている。

〈養成所の運営計画と将来構想〉

- ・国立病院機構の中期計画、年度計画を学校の運営方針に盛り込み、プロジェクトを立ち上げ具体的な教育活動につなげている。

〈自己点検・自己評価体制〉

- ・毎年年度末に「自己評価における視点」をもとに評価項目の意味を理解しながら、教員全員で自己点検・自己評価を実施し、評価結果を学校評価としてホームページに公表している。

↓

【課題】

- ・教員の実務研修については実施に至っていないとあるが、教員個々のキャリアとニーズに応じた研修内容の必要性を判断し、臨床と相談した上で可能な範囲での計画実施を期待する
- ・学校に必要な安全管理規程と各災害等マニュアルの作成を期待する。

V. 入学

- ・入学試験実施規程や運営会議による入学者選抜は、教育理念と教育目的との一貫性をもって行われている。

↓

【課題】

- ・今後益々学生確保が困難な状況にある中で、効果的戦略方法を検討していかれることを期待する。

VI. 卒業・就職・進学

- ・卒業に至るまでの学籍の異動（留年・休学・退学）として、休学・留年の数が減少している。国家試験の分析は、学生にとって成果の上がる取り組みとなっている。卒業時の学生の到達状況、就職・進学状況を把握して分析し、教育活動に反映している。

↓

【課題】

- ・卒業後の把握は、母体病院・実習病院ではできているが、他の就職先で難しいことや卒業後の支援体制が課題だと考える。

VII. 地域社会／国際交流

〈地域社会〉

- ・地域社会では、学校の位置する地域や社会資源、地域のニーズを意図的に把握すること、看護学校としての地域貢献や地域の方々との連携により看護教育の充実に努めていることが評価できる。特に母体病院への行事、地域でのボランティア、住民向けの公開講座など地域に開かれた学校づくりを活発に行っている。

〈国際交流〉

- ・母体病院が開催しているアジア国際小児医療学会（AMCCH）に学生が参加し、国際感覚を身につける機会として良い経験ができています。

↓

【課題】

- ・留学生や海外での看護職を希望する学生への対応については、貴校の状況を鑑み検討されることを期待する。

VIII. 研究

- ・運営方針を明確にし、各自がその能力開発に努力する意思及び教員相互で支援し合う組織づくりを共有している。学内では、各自の研究活動を支援するための時間的、財政的、環境的な視点での課題を明確にして対応に努めている。

↓

【課題】

- ・今後の課題として、全教員の研究活動の時間的確保や研究能力向上への取り組みを明確化し、実現に向けて推進していくことを期待する。